

山岳トイレ技術実証事業シンポジウム開催方針

平成 15 年度から始まった「環境技術実証モデル事業」は、19 年度で 5 年という 1 つの区切りを迎える。本事業のスタート時から実施してきた「山岳トイレ技術分野」においても、平成 19 年度末までに 11 社 12 技術の実証を終える予定である。この間、山岳トイレが技術的に進歩し、山小屋トイレ改善の動きが活発になってきた。

そうしたなかで、この事業をとおして得られた主な成果としては、以下の内容があげられる。

<成果>

1. 処理方式ごとの試験方法を設定し、性能等を把握することができた。
2. インフラ整備状況など、設置条件が異なる場所への適応可能性を整理することができた。
3. 山岳トイレを整備する際の留意点を把握し、実証技術の改善の方向性を整理することができた。
4. 山岳地以外の自然環境エリアへの適応可能性を見出した。

しかし、その一方で、以下のような課題とニーズがあげられている。

<課題>

1. 平成 18 年度に実施された山岳トイレ整備調査簿作成業務報告書に掲載されており、トイレ整備後のトラブルも少なくない。
2. インフラ整備状況等の設置条件によって、どのような機種を選定すればよいか分からない、という声が、トイレ整備担当者や山小屋等からあげられている。
3. さまざまな処理方式名称が使用されており、分類や特徴が分かりにくいいため、トイレ設置者、技術開発者、研究者等の間での情報交換がしづらくなっている。

このような要望に応えるためとモデル事業の集大成として、山岳トイレ技術実証シンポジウムを開催し、現在、山岳トイレし尿処理技術WGで作成している「し尿処理方式分類」と「山岳トイレ技術の機種選定フロー」について解説し、実証試験結果を踏まえた適切な情報を提供することが必要であり、事業化に向けたシナリオを再構築する意味も含めて今、開催する必要がある。

また、これまでの概要版が配布されているものの、詳しく読まれていないことやそれに伴い理解が進んでいないことが現状である。そのため、山岳トイレ技術の正しい理解、技術特徴、機種選定プロセスを丁寧に説明し理解してもらうことで、山岳トイレのトラブルの減少へつなげる。

シンポジウム構成案

—これまでの経緯と現状の課題—

- (1) 山岳トイレの目指すべき方向と技術実証事業の位置づけ
- (2) これまでの事業実施報告と紹介
- (3) モデル事業の実施内容の整理

“山岳トイレ整備後の「効果」と新たな「問題」”

—事例と実体験から、今、現場が抱える悩みを明らかにする—

- (1) 山岳トイレ整備における技術選定理由
- (2) 山岳トイレ整備後の効果
- (3) 山岳トイレを維持するためのコスト、保守点検、エネルギー等

“山岳トイレ整備推進の適正化に向けて”

—今ある技術を分類・整理し、トイレ技術一覧表の作成を試みる—

- (1) 山岳トイレの機種分類を提案
※簡潔で分かりやすい分類法を提案
- (2) 山岳トイレの機種比較方法を提案する
※立地・利用条件、コストなどによる機種比較の方法について提案

“山岳トイレ実証事業に期待する内容と役割”

- (1) トイレを整備する上で必要な情報
- (2) 実証試験結果およびデータの情報公開方法
- (3) 実証技術に付与するロゴマークの位置付けと期待
- (4) 山岳トイレ整備を実施する際のサポート体制
- (5) 山岳トイレのトータル管理システムの確立に向けて